

みんぱく



開館40周年記念シンポジウム

# 民族誌 コレクションの 役割と その未来

—人間の理解にむけた博物館の挑戦

2018年3月25日[日]

13:30~16:30(開場13:00)

会場: 国立民族学博物館 講堂

定員: 450名(先着順・事前申込は不要です)

要展示観覧券(一般420円)

基調講演 木下 直之  
東京大学 教授、静岡県立美術館長

発表1 野林 厚志  
国立民族学博物館 学術資源研究開発センター 教授

発表2 丹羽 典生  
国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部 准教授

主催: 国立民族学博物館



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# 民族誌 コレクションの 役割と その未来

—人間の理解にむけた博物館の挑戦

あらゆる現象を科学的な知識によって説明し、科学技術によって問題を解決することを志向する現代文明社会において、博物館はどのような意味をもつ空間なのだろうか。「人間とは何か」という根源的かつ魅力的な問題は、博物館においてどのように考えることができるのだろうか。今回のシンポジウムでは、人間を理解するための切り口を博物館のコレクションに求めてみたい。



## プログラム

- 13:00 開場
- 13:30 開会挨拶  
吉田 憲司  
国立民族学博物館長
- 13:40 主旨説明 野林 厚志
- 13:50 基調講演 木下 直之
- 14:50 発表1 野林 厚志
- 15:10 発表2 丹羽 典生
- 15:30 休憩
- 15:40 パネルディスカッション  
木下 直之 野林 厚志  
丹羽 典生 上羽 陽子
- 16:30 終了

## 総合司会

上羽 陽子 (うえば ようこ)  
国立民族学博物館 人類文明誌研究部 准教授

### 基調講演

## 美術作品・遺品・ヒトの収集と 展示をめぐって

博物館とは立ち止まる場所だ。立ち止まることではじめて、世の中を振り返り、見渡すことができる。宇宙の果てから人間の深奥部まで何でも展示可能だが、結局は、人間とは何かを考えることになる。収集と展示にはかならず選別が働く。あえて美術作品、遺品、ヒトの収集と展示という観点から、博物館の可能性と限界を考えたい。



きのした なおゆき  
**木下 直之**  
東京大学 教授、  
静岡県立美術館長

幕末・明治期の造形表現の形成と変容と展開を、美術史学の枠組みを離れて、追求している。写真、芸能、祭礼、見世物、民衆娯楽に目を向けるとともに、それらの表現活動と社会の関係の解明にも取り組んでいる。著書に『美術という見世物』（平凡社 1993年）、『銅像時代』（岩波書店 2014年）、『せいさの大問題』（新潮社 2017年）など。

### 発表1

## 万博資料収集団の足跡

EEM（「日本万国博覧会世界民族資料調査収集団」）は、70年大阪万博のテーマ館であった太陽の塔の地下展示のため、世界の諸民族の仮面、神像、生活用具を収集した。現地の現実、日本人の乏しい世界の理解への葛藤等を団員たちが感じたEEMの収集活動とそのコレクションのもつ意味を、収集当時、現在、未来という視点で考える。



のばやし あつし  
**野林 厚志**  
国立民族学博物館  
学術資源開発センター  
教授

人間と他の動物との関係を、民族考古学・生業研究・物質文化論をとおして探究。近年では、現生人類の特徴としての道具作りと料理に焦点をあてた調査、研究をおこなっている。著書に『台湾インノシシを追う』（臨川書店 2014年）、『台湾原住民族研究の射程』（順益台湾原住民族博物館 2014年）など。

### 発表2

## 万博資料収集団の オセアニアにおける収集活動

万博資料収集団によるオセアニアの収集活動を取り上げる。彼らが赴いた1960年代のオセアニア社会はどのような状況にあったのか、国や民族の自立という視点から分析する。また彼らが収集した標本資料の特徴とそれらが現在現地社会でどのような位置づけにあるのか、コレクションについて考えたい。



にわ のりお  
**丹羽 典生**  
国立民族学博物館  
超域フィールド科学研究所  
准教授

専門は社会人類学、オセアニア地域研究。特にフィジーを対象として、文化変容・宗教的社会運動などについて研究。近年は、応援の比較文化論に手を伸ばしている。編著書に『〈紛争〉の比較民族誌』（春風社 2016年）、『現代オセアニアの〈紛争〉』（昭和堂 2013年）など。

## 特別展のご案内

開館40周年記念特別展  
**太陽の塔からみんぱくへ—70年万博収集資料—** 2018年3月8日(木)~5月29日(火)  
詳細はホームページをご覧ください。

## 国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

●開館時間…………… 10:00 ~ 17:00(入館は 16:30 まで) ●休館日…………… 水曜日 (水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料…………… 一般 420 円 / 高校・大学生 250 円 / 中学生以下 無料  
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

### 交通のご案内

- 大阪モノレール… 「万博記念公園駅」、「公園東口駅」徒歩約 15 分
- バス…………… 阪急茨木市駅・JR 茨木駅から「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」  
「日本庭園前」下車徒歩約 13 分
- 乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約 5 分  
※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

※高校・大学生・一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。※小・中学生が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんぱくへ行くことを申し出いただき、無料通行券をお受け取りください。 ※東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。 ※東口または日本庭園前駐車場から来館し、自然文化園(有料区域)を通行してお帰りの場合は、同園入園料が必要です。

[大阪・万博記念公園]  
〒565-8511  
大阪府吹田市千里万博公園10番1号  
研究協力課国際係  
Tel:06-6878-8235 Fax:06-6878-8479  
www.minpaku.ac.jp/

